

「欧州・オランダにおける食品安全性リスクコミュニケーション」

食品消費者製品安全庁長官 ヨハン・F・デレーウ
(2004/2/16 食のリスクコミュニケーション意見交換会講演要旨、
講演スライド 及びその和訳は別紙)

オランダ食品消費者安全庁 (VWA) について

組織概要

中央政府の独立組織で、職員は約 2600 人。2001 年に公衆衛生省食品局として誕生、2003 年から農業・自然・食品品質大臣が担当大臣。

大切な使命の一つは、食品の公衆衛生、動物の福祉などについて、目に見える形でリスク低減に貢献すること。

役割・機能

食品安全に関するリスク評価と研究、リスクコミュニケーション。

一部リスク管理も行う (外食産業の衛生監視や法制遵守の担保など技術監督)。活動においては、完全に独立している。

欧州食品安全庁 (EFSA) とのかかわり

EFSA は、EU 域内でのリスク評価活動を調整する組織。VWA は、EFSA のオランダ連絡事務所としての役割を持つ。

リスクコミュニケーションについて

目的

すべての関係者に、リスクを理解してもらうこと

リスク低減の度合の共通理解に向けて、しっかり情報提供すること。

一般に知られているリスクと実際のリスクの間でバランスが崩れているので、現実的なバランスをとるようにコミュニケーションすること。

ポイント

科学的に根拠がある情報を、受け手に対して提供すること。また、リスクがどの程度知られているかによって、リスクコミュニケーションのポイントは変わる。

今後の考え方

リスクコミュニケーションにおいて、消費者がどんな質問を抱くか、リスクにどう対応するかを常に考えることが大切。

最近、学会やマスコミ関係者などで作るシンクタンクを設立し、異なった事象ごとに、リスクコミュニケーションのシナリオを作成している。

VWA の今後の見通し

優先するテーマ

2004 年 ~ 2007 年で、リスク研究やリスクコミュニケーションを進める 3 テーマは、アレルギー 健康的な食生活の推進 GMO。

消費者のアイデンティティの確立

消費者を明確にカテゴリー分けすることは、難しいが大切。機能性食品、インスタント食品、イスラム系のハラール食品の需要など、食生活の変化は明らかだ。

ゼロ・リスク問題

検査技術の向上により分析精度が上がっており、ゼロ・リスクでは問題解決につながらないことが増えるだろう。公衆衛生の観点に基づく世界標準が必要だ。